

今週（11月12日から11月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの最終週を迎えたものの各業態の調達意欲は盛り上がりせず、先週と同様、低めのレートでの取引が中心となった。日銀当座預金残高は週を通して390兆円台前半で推移した。今週の無担保コールO/N物は、15日に積みの最終日を迎えたものの、調達サイドの参加者は週を通して限られており、下限域での取引が中心となった。出会いの中心レートは、12日から積み最終日の15日にかけて▲0.086%～▲0.05%で推移した。調達参加者が限られていたため、実質的な下限レートである▲0.086%のオファーでも運用先が見つからずに出し残ってしまうオファーが連日見られた。16日からは新しい積み期間が始まったものの、レート状況にはあまり変化が見られず、▲0.086～▲0.05%が主な出会いの水準となった。無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.07%台での推移となったが、14日は一部の先で調達訓練のための+0.001%での資金調達が行われた影響で、加重平均レートはやや上昇し▲0.066%となった。ターム物は、新しい積み期となる16日スタートの引き合いが散見され、1W～2W物のショートターム物で▲0.045～▲0.03%のレンジで出会いが見られた。固定金利方式の共通担保資金供給オペは、16日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,462億円（期落ち分1,763億円）で札割れとなった。14日には3市場合同BCP訓練の一環として、固定金利方式による全店共通担保資金供給オペ（O/N物）が1,000億円オファーされ、49億円の落札結果となった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、積み期間最終日を週内に迎えたことで、その前後でレート水準が大きく変わり、ボラタイルな動きが多く見られた。週初12日のC/Nは▲0.20～▲0.12%の出会い、T/Nは▲0.28～▲0.18%での出会いと非常にボラタイルな動きであった。翌13日も▲0.25～▲0.12%とレンジの広い動きとなった。14日T/Nは積みの最終日に当たることから、やや投資家の資金調達ニーズが見えたことでレートは上昇し、▲0.18～▲0.10%での出会いとなった。翌15日のT/Nは積み期が変わることで投資家のオファーがやや見えたため、落ち着いた動きとなり、▲0.125～▲0.115%程度の出会いとなった。しかし、週末の16日のT/Nは再び投資家のオファーが薄くなり、レートは低下して▲0.16～▲0.13%の出会いとなった。SCについてはビッドが目立った銘柄は5y135～137、10y335～352、20y164～166、30y59～60、40y11にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、一旦落ち着いた年末越えの動きが再び強まり、3M物中心に堅調なマーケットとなった。13日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまる中、按分落札利回較差+0.020%、平均落札利回較差+0.025%と、在庫調整の売りから弱い結果となった。16日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.29%から▲0.328%まで一時買い進まれたものの、その後▲0.30%近辺の気配で引ける展開となる中、平均落札利回▲0.2984%、按分落札利回▲0.2847%とWI取引の強めの出会いを反映し、前回債からレートが低下する強い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額7,000億円程度に対して、週間発行総額は9,000億円程度と発行超となった。15日発行にはゴム製品・電気機器・不動産等の業態において大型発行があったものの、依然として銘柄に拡がりはないため概ね落ち着いたマーケットとなった。発行レートについては、発行頻度や発行残高が少ない銘柄においては一部で強めの買いが見られたが、その他は概ね0%近辺での決着となった。13日にはCP等買入オペが、オファー額2,000億円で実施された。結果は、平均落札レート0.001%、按分落札レート▲0.004%となった。前回比で見ると、平均（前回▲0.002%）は前回からのインターバルが短く発行が大きく膨らまない中、高レート銘柄が対象であったことから上昇した。按分（前回▲0.002%）は低下したものの、応札額が3,675億円と量的・質的金融緩和策導入後のCP等買入オペ史上最低額となったことを考慮すると、低下幅は限定的であった。10月以降のオペレートが膠着気味だったことで参加者全体のレート目線が下がりづらかったことが反映されたと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
11/12（月）	22,269.88	0.115	114.09	△ 0.070	△ 0.200	3,917,600
11/13（火）	21,810.52	0.110	113.70	△ 0.072	△ 0.256	3,921,500
11/14（水）	21,846.48	0.105	113.92	△ 0.067	△ 0.178	3,918,900
11/15（木）	21,803.62	0.105	113.61	△ 0.073	△ 0.130	3,927,500
11/16（金）	21,680.34	0.100	113.40	△ 0.072	△ 0.132	3,909,300

## 来週（11月19日から11月22日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/19 (月)	10月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 21,000億円 11/20発行			
11/20 (火)		20Y 10,000億円 11/21発行	交付税借入 10,500億円 11/30借入		10月の米住宅着工件数
11/21 (水)					10月の米中古住宅販売 10月の米耐久財新規受注
11/22 (木)	10月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,800億円 11/26発行	流動性供給 6,000億円 11/26発行	交付税借入 10,500億円 12/4借入	New York祝日(Thanksgiving Day)
11/23 (金)	勤労感謝の日				

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/19 (月)	200	▲ 3,700	▲ 3,500	国債買入 全店共通 国債補完	▲ 1,800 700	7,100 1,500	7,500	4,000	TB3M発行▲42500償還40500
11/20 (火)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	TB1Y発行▲21000償還18600 変動15Y償還3600 エネルギー対策借入▲6000期日5000
11/21 (水)	▲ 1,000	▲ 13,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	20Y発行▲10000
11/22 (木)	▲ 2,000	2,000	0				0	0	交付税借入▲10500償還10500 預保借入期日600
11/23 (金)									
週間合計	▲ 3,800	▲ 15,700	▲ 19,500	—	▲ 1,100	8,600	7,500	▲ 12,000	

11/19は日銀予想、11/20以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、21日に20Y発行による資金不足が見込まれている。新積み期に入り、無担保コールO/N加重平均レートは低い水準での推移が見込まれる。レボ市場は、積み期序盤であり、投資家の資金調達ニーズもはっきりとは見られない展開が予想され、レートは比較的幅を持って動くことが予想される。短国市場は、19日に1Y物、22日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。CP市場は、週を通して特段のイベントが無いいため落ち着いた地合いが予想されるが、下旬に向けてどれだけ発行銘柄に拡がりがあるか注目される。

主要なイベントとしては、国内では22日に10月の全国CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入